

出会えた言葉で未来は変わる

五条にしかわ歯科クリニック

依田 絵里子

「疾患を治すことを強要するより、健康であることの要求を高めるのが私たちの務めだ」
鈴木先生のこの言葉に衝撃を受けたのを今でも覚えています。
歯科は疾患を治す所だと私自身思っていました。

トリートメントコーディネーター(以下 TC)という資格を知るまでは、歯科助手(以下 DA)という資格が好きというだけで続けていました。

DA 生活を続けているある日、体調不良が続き、始めは加齢のせいもしくは人員不足によるオーバーワークかなと感じていました。

食べる事が大好きな私ですが、食欲がない、食べなくても嘔吐する生活になり、検査を受けてから投薬治療が始まりましたが、改善することなく体調は悪化する一方でした。家族からセカンドオピニオンを勧められました。

少しでも楽になるならと、受けたセカンドオピニオンでの診断結果は、私の予想を上回る残酷なものでした。

「普通なら倒れています。明日の仕事より明日生きる事を考えてほしい。」医師から告げられた言葉です。

緊急入院となり、生活するためではなく生きるための治療をする入院生活を余儀なくされました。病気と無縁だった私は、その日から闘病生活となったのです。

治療が辛い、職場に迷惑を掛けている罪悪感、好きな DA の仕事ができない、患者さんに会えない、そんな生活も 1 か月が過ぎ、ようやく生きる可能性が出てきた時に、私は DA の仕事に戻ることを目標にしました。

容態が安定すると、しだいに周りに目が行くようになり、同じ病棟の入院患者さんから話しかけられる事も多くなりました。高齢者の方が多病棟の中で「総入れ歯だから美味しく食事できない」「しっかり噛めない事が原因で誤嚥してしまうから辛い」という嘆きを沢山聞きました。

闘病生活がきっかけで、DA として復帰した時に何か出来ることはないか調べましたが、その何かを見つけられずに 2 カ月の入院生活を終えなんとか仕事復帰をしました。

退院して 2 年経ってもまだ見つからない、ただ今のままの DA で終わりたくないと考え、思い切って現在の医院に移ることを決めました。

カウンセリングを大切にしている今の医院では、TC という仕事を初めて知りました。TC の先輩を見ていると、初診カウンセリングでは温かく患者さんの今までの歯科に対する

思いを沢山聴き、2ndカウンセリングでは、Drが話すような高度な説明をわかりやすく患者さんに伝えていて、その姿はとて素敵でかつこよく、患者さんからの信頼の厚さが目に見えてわかりました。

いつかはこんな人になりたい、探していたなりたい何かを見つけた、なりたい何かを持っている目標の人と出会えたのだと確信しました。

あんな高度な事が私にできるのかと一歩踏み出せずにいましたが、いつかはと思っていたTCレギュラーコースに参加を急遽決めました。

ところが人気のあるセミナーのため今季の募集は満席との事で、キャンセル待ちをしていましたが席を確保できたという連絡をいただき、タイミングが全て整って参加する事ができました。

そして一番始めのセミナーで、

「疾患を治すことを強要するより、健康であることの要求を高めるのが私たちの務めだ」という鈴木先生の言葉を、教えていただきました。

今までの私は、疾患を治すのが歯科だと思っていました。

間違っていたのだと、この言葉を聞いて気づくことができたのです。

疾患を治すことを強要して日々の診療が流れ作業のようになっていたので、患者さんに寄り添えていない私が、自費補綴について、いくら患者さんに説明しても響かないのは当然のことだと気づきました。

患者さんを置き去りにして自分本位な説明で信頼関係などできるはずもなかったのだと恥ずかしい気持ちと申し訳なさを感じました。

一か月に一度のセミナーは、座学だけでなく、完全現場主義のセミナー会場は中途半端な気持ちで受講する仲間は一人もいませんでした。

受講する仲間の本気を強く感じる事ができる空間で沢山の良い刺激を受けました。

毎回惜しみなく知識や細やかな心遣いのテクニックを教えてくださいと鈴木先生や講師の先生方、知識を共有できる仲間と学ぶセミナーは毎回楽しく濃厚な時間でした。

聴く、伝える、透明な心で接する、受容する事を始めたところ普通の診療においても患者さんの反応が明らかに変わったと手応えを感じました。

以前の私よりも、患者さんに寄り添うことが出来るようになったのではないかと思います。今後の私にできる事は、初診で緊張されている患者さんの緊張を少しでも和らげられるよう最高の笑顔で挨拶をするところから始まり、しっかりと寄り添い、患者さんが心を開きやすいカウンセリングを行うことだと思います。

その為には、患者さんが何を伝えたいのか見極め、背景を探りの外的外れにならないようにする事が大切だと思います。

患者さんと信頼関係を築き、Drには伝えにくい事もこの人には話せるという架け橋のような存在になりたいと思います。

健康な身体は口腔からという意見広告まで新聞に出ています。それぐらい大切な口腔内環境に関心を持っていただけるようにカウンセリングをする事が、TCの役割だと思います。

欧米ではTCは確立された資格ですが、日本ではまだまだ知名度は低いのです。海外では保険は医科か歯科を選ぶなら医科を選ぶ人が大半である為、治療になると自費治療になるのがほとんどだそうです。だからこそ再治療になりにくい治療の提案や、定期健診の必要性を伝えるTCが必要不可欠なのです。必要性を知っているからこそ日本より予防に対する意識も高いのです。

日本では国民皆保険制度のおかげで疾患を安価で治療できるメリットがありますが、安価で治療ができるという手軽さが実はデメリットを生み出しているのも現実です。

「穴があいたから」「詰め物が取れて痛いから治療したい」

「痛いから抜いてほしい」と言う患者さんも多いのが事実です。

グラグラしてないし歯周病じゃないから歯石取りは家で頑張ってやると言う方までいたりします。何かあればまた歯科に行けば治してもらえると安易に考えてしまう患者さんが多いのも事実です。

高額な治療であれば、治療にならないように予防に力をいれるのではないかと思います。治療を繰り返すといずれ歯を失うリスクを抱えていることを知らない患者さんは意外と多いのです。

喪失した歯がまた喪失する歯を作るロススパイラルを知らない人が多く、グラグラする症状が出たら歯周病末期と知らない人も多いのです。

皆さんに共通していることは困ったときにだけ歯科に行っていた、予防に行かないリスクを伝えるTCがいる歯医者に行ってなかったという方がほとんどだということです。

再治療のリスク、再治療になりにくい治療法、予防の大切さを患者さんが気づき、行動していただけるように説明できるのは一番患者さんに寄り添えるカウンセリングの技術を持っているTCだと思います。

そんなTCが日本にも増えることで、ご自身の口腔内の現状を知らない患者さんに、ご自身の口腔内を知っていただき、興味をもっていただけるカウンセリングができる環境がもっと広がればいいなと思っています。

そして、疾患を治した後に口腔内の予防がなぜ必要であるかを衛生士とTCが連携を図り、患者さんにしっかり説明して予防の重要性を知って通院していただくことがとても大切だと思います。

保険で予防ができるのも日本の国民皆保険制度の良い部分です。
良い部分をもっと活用して、歯科を治療の為の場所だけでなく患者さんが
「健康でありたいから行く場所」
という場所にしたいと思っています。

「疾患を治すことを強要するより、健康であることの要求を高めるのが私たちの務めだ」
鈴木先生という言葉で私は、変わることができました。

この人がいる歯医者に行けてよかった。
そんな代わりのきかない TC になることが私の理想です。

健康であることの要求をさらに高める情報提供をできる医院にすることが私の目標です。